

ツール 4：半構造化インタビュー

このツールの目的

さまざまなステークホルダーが関係する問題について深掘りし、ステークホルダーのエンゲージメントを強化する。

このツールを使うタイミング

ある問題についての深掘りがさらに必要な場合、このツールは、プロジェクト、MSP、リサーチのほぼすべてのステージで使うことができる。

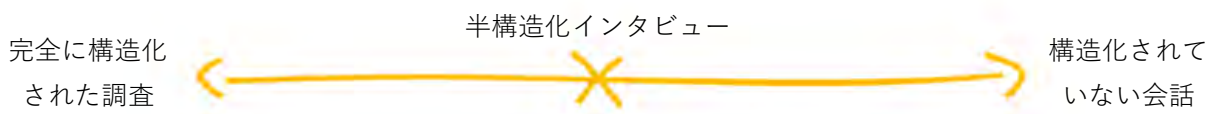
半構造化インタビューとは

質問が固定されている選択回答式調査とは異なり、半構造化インタビューは、オープンで、回答者の答に応じてインタビューの間に生まれ得る新たなアイデアにフレキシブルに対応するものだ。このツールは、さまざまなステークホルダーが抱える問題を理解するために、プロジェクト初期のアクティビティとすることもできれば、もっと後のステージで、インデプス調査のために用いることもできる。

なぜ半構造化インタビューを行うのか

半構造化インデプスインタビューは、定性的データを提供してくれるもので、インタビューを行う者にもインタビューに答える者にもその問題についての理解を与えてくれる。このインタビューはまた、両者の間に絆を築いてくれるため、ステークホルダーエンゲージメントのために用いることもできる。このようなインタビューの場合は、インタビューする者とされる者の両者が生み出すインターフェイスであり、情報共有や対立、内省、学習の場として機能し得る。

半構造化インタビューを行い、その結果を分析するに当たり、それを専門とする研究者だけに任せるのではなく、さまざまな業界出身のステークホルダーを関与させることにはさまざまなメリットがある。これはステークホルダー同士のやり取りや学びを促進するのに適切な方法であり、特定のステークホルダーの意見をMSPの議論に取り込むために用いることもできる。特定のステークホルダーとは、たとえばMSPの公式ミーティングには参加することができない地域コミュニティの人々や、上級ポジションにいる関連ステークホルダーなどが考えられる。CDIの経験では、上級ポジションのステークホルダーは、(時間の制約や、よりポジションの低いスタッフに任せるため)ワークショップへの参加には積極的ではないが、多くの場合、インタビューを通じた意見の提供には喜んで協力してくれる。



出典：Tools4dev

半構造化インタビュー – ステップ・バイ・ステップ

半構造化インタビューでは、インタビューする者にはインタビューガイドが渡されるが、これはカバーすべきトピックのチェックリストの役目を果たす。このガイドは、質問内容に関わるテーマやサブテーマ、マップ、写真、図表、リッチピクチャーなどをベースにしている場合もある。完全に構造化されたインタビューとは異なり、このガイドは一切変更が許されない質問リストではなく、インタビューの流れに応じて文言や順序を大きく変えることも多い。インタビューする者にはまた、さまざまなトピックのために割く時間や関心についても大きな裁量権が与えられている。インタビュー中に直接相手を観察して思いついた予定外の追加質問を行うこともできる。半構造化インタビューでは、思わぬ方向性を深掘りし、興味深い発言やテーマについてさらに詳しく尋ね、状況についての深い相互理解を構築する余地が与えられている。

準 備

1. 自己紹介を行い、インタビューの目的を伝える。
2. インタビューでカバーする全般的な話題やテーマを紹介する。
3. 定義が必要なシンプルな質問から始め、より複雑で構造化された対比質問に移る。
4. 自由回答ができる質問を行う。答えを誘導するような質問は避けること。
5. 何かを掘り下げる質問を行う際には、特に繊細な注意が必要。
6. 記憶に新しいうちに、すぐにインタビュー内容を書き留める。
7. 可能であれば、インタビュー相手に対し、インタビューで得られた情報をどのように使うかについて情報共有する。
8. 自分は相手に物事を教えるためではなく、相手から物事を学ぶためにいるのだということを忘れないようにする。
9. 個人に対するインタビューは45分から1時間で行い、それ以上長くならないようにする。
10. グループインタビューは2時間を超えないようにする。

ヒント

- ・ カードの束に、尋ねたいさまざまな話題と関連質問を書き留める。ある話題を尋ねたら、そのカードは脇によけておく。
- ・ 一般的な質問から始め、徐々に具体的な質問に移るようにする。
- ・ インタビュー相手自身の言葉を用いてさらなる質問を行うことでコメント間につながりを持たせるようにし、インタビュー相手が自分の言葉で情報を提供できるようにする。
- ・ インタビュー相手が追加情報を提供できるよう、深掘り質問をさまざまな言い回しで行う。
- ・ インタビュー中に自分が観察したことと、インタビュー中に得られた情報との間のつながりを理解する。

さらに知りたい方は：

C. Robson (2011). Real World Research. Patstow, UK, Wiley. p285

www.sswm.info/content/semi-structured-interviews

www.tools4dev.org/resources/how-to-do-great-semi-structured-interviews/